

もしもに備えて

災害発生前にできること

「防災ガイドブック」の目的

行田市は、洪水や内水はん濫、暴風などの風水害や地震の災害リスクがあります。

自然災害の発生を防ぐことはできません。しかし、市民のみなさん一人ひとりが防災への関心を高め、日ごろから備えておくことで災害による被害を減らすことができます。

市では、災害に備えて準備できることや災害が発生したときの行動を示すために「行田市防災ガイドブック」を作成しました。

このガイドブックでは、被害を抑えるためにどんな準備をするか、風水害・地震ごとにどのような対策が必要か、避難を行った際はどのように行動したらよいかなどを記載してあります。

ガイドブックを参考にして、ご家庭や地域などでできることを再確認し、「もしも」のときに備えてください。



自助・共助・公助の活動

発災後、行政による支援がすべての現場へ速やかに到着することは困難です。まずは「自分自身や家族の身を守り、隣近所といった地域コミュニティとの助け合いによって被害を最小限に抑えること」が一人ひとりの大切な命を守ることに繋がります。

なお、市では地域の防災力強化のため、地域の防災リーダー育成など様々な取り組みを行っています。

自助

一人ひとりが自分や家族の命を守る

- ◆発災後最低3日間を乗り切る家庭での備蓄
- ◆住宅の耐震化、家具の転倒防止
- ◆避難場所、避難経路の確認
- ◆緊急連絡先の確認

共助

地域や身近にいる人同士が互いに助け合う

- ◆自主防災組織の活動への参加
- ◆地域の防災点検
- ◆避難所運営への協力
- ◆地域の高齢者、障がい者などの要配慮者への支援

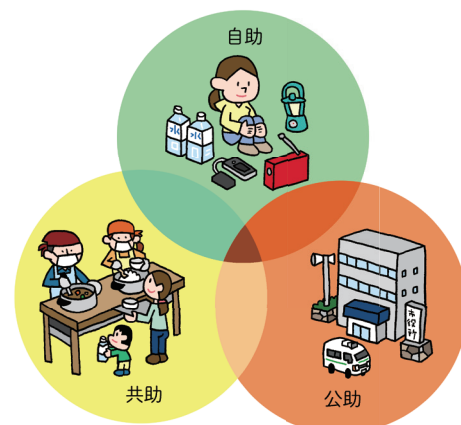
公助

行政機関が救助・支援活動を行う

- ◆防災設備（防災行政無線、備蓄倉庫など）の整備
- ◆地域防災計画の策定
- ◆災害発生時の救助活動
- ◆自助・共助への支援
- ◆防災士※資格取得の推進

※防災士とは、NPO 法人日本防災士機構による民間資格。

機構の定めるカリキュラムの履修や試験、救急救命講習の受講などにより防災に関する正しい知識や技能、意識を有する者として認定される。



自主防災組織をご存じですか？

自主防災組織とは、自治会をベースとして「自分たちの地域を自分たちで守る」ために活動する組織のことです。もしものときに備えて日ごろから顔見知りになっておくことが重要であり、災害発生時に地域住民がともに助け合い、被害が最小限になるよう自主防災組織の活動に協力しましょう。

非常持出品と備蓄品

大規模な災害の発生時には、物流の停滞による物資の不足やライフラインが被害を受けることで水道、電気、ガスなどが停止するおそれがあります。最低限必要なものをすぐ持ち出せるようにしておく「非常持出品」や自宅での避難生活に備える「備蓄品」を用意しておきましょう。

非常持出品や備蓄品の例

飲料水

家族全員の飲料水として1人1日3リットル、1週間分を目安にする。



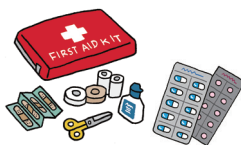
食料

調理を必要としない食品など1週間分を目安にする。



医薬品・常備薬

被災地では薬品が不足しがちであるため、各家庭で十分に準備する。



体ふきウェットタオル

お風呂に入れないとき、体を清潔に保てるようにする。



口腔ケア用品

口の中が不衛生になると肺炎をおこしやすくなる。



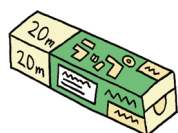
貴重品

運転免許証や健康保険証、マイナンバーカードなどの身分証明書。現金は小銭も用意すると便利。



ラップ

食器に敷いて使えば洗う水を節約できる。



ポリ袋

水の運搬や雨具の代用、トイレの逆流防止（水のう）など多用途に使える。



ライト・ランタン

停電時の照明。LEDだとより長く明るく過ごせる。



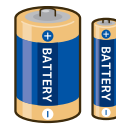
電池交換式バッテリー

携帯電話などの停電時の予備電源として所持しておく。



乾電池

電池交換式バッテリー用などに多めに用意しておく。



カセットコンロ・カセットボンベ

温かい食事の必需品。予備のボンベは多めに用意しておく。



毛布

避難所の備蓄には限りがあるため、持ち運びできるものを用意する。



新聞紙

紙食器やトイレの吸水、体に巻いて防寒などに活用できる。



非常用トイレ

断水になれば自宅トイレが使えない。1人1日5回分を目安にする。



生理用品

使い慣れたものを自分の使用期間に合わせて用意する。



感染症対策用品

マスクや消毒液等は避難所で不足しがちである。



非常持出品と備蓄品については、行田市ホームページでも確認できます。



家庭状況によって必需品は変わります

非常持出品や備蓄品を検討する場合、乳幼児、妊娠中の方、要介護者、ペットの有無などによって、家庭でそろえるべきものが違ってきます。それぞれの家庭の状況に応じた準備が求められます。

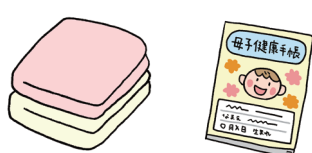
乳幼児がいる場合

粉ミルク・液体ミルク、ほ乳瓶、紙おむつ、おしりふき、おもちゃ、母子健康手帳 など



妊娠中の方がいる場合

ガーゼ、腹帯、分娩準備品及び新生児用品、母子健康手帳 など



要介護者がいる場合

介護用品、入れ歯、補聴器、大人用おむつ、常備薬、老眼鏡 など



ペットがいる場合

ケージ、リード、ペットフード、食器、トイレ用品、飼い主の情報 など



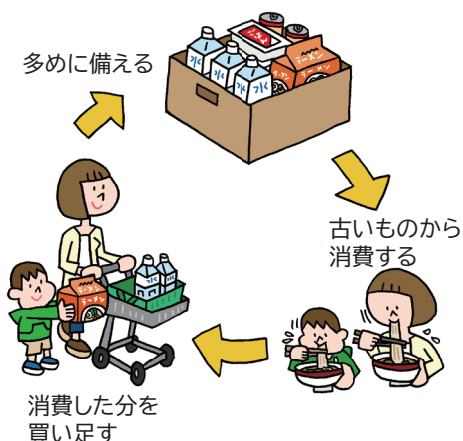
使いながら備蓄する『ローリングストック』

「ローリングストック」とは、日ごろ食べ慣れているものや使い慣れているものを多めに購入しておいて、日常生活の中で消費し、消費した分をこまめに補充することで、常に一定量を備蓄する方法です。

災害用保存食だけでなく、缶詰やレトルト食品など消費期限が長い食品もローリングストックに適しています。

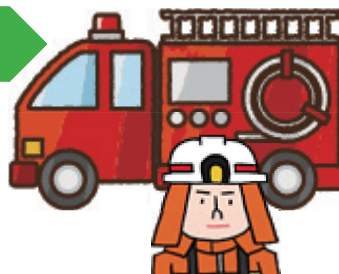
【特に重要なポイント】

- ◆ 飲料水及び食料品は最低3日分、できれば1週間分を確保する。
- ◆ 家庭状況（乳幼児・高齢者・食物アレルギー等）に応じた食料品を用意する。
- ◆ 自分や家族が食べたいものを用意する。
- ◆ 使い慣れた日用品なども同程度用意する。



火災対策

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、速やかに119番通報を。初期消火で火を消せなかったら、素早く避難しましょう。



初期消火の3原則

1 早く知らせる

- ◆「火事だ！」と大声で叫び、家族や隣近所に知らせる。
- ◆小さな火でも119番に通報し、出火場所や様子などを伝える。



2 早く消火する

- ◆出火直後の初期消火が重要。天井に火が移る前であれば消火することができる。
- ◆水や消火器だけでなく、水にぬらした毛布をかぶせるなど、身近なものを活用する。



3 早く逃げる

- ◆天井まで火が燃え広がったら消火は困難。速やかに避難する。
- ◆避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断する。



火災に備える日ごろのポイント

コンロから離れない

- ◆コンロのまわりに燃えやすいものを置かない。
- ◆火がついているコンロから離れるときは必ず消すこと。

寝たばこ、ポイ捨ては厳禁

- ◆火がついたたばこを放置しない。
- ◆喫煙するときには深い灰皿を使い、吸殻を捨てる時は必ず水につける。

配線まわりはきれいに

- ◆複数のコードをまとめたり、たこ足配線にしない。
- ◆コードの上にものを載せるのは危険。
- ◆コンセントまわりは定期的に掃除する。

ストーブのまわりを整理

- ◆衣類や布団など、ストーブのまわりに燃えるものを置かない。
- ◆家具のそばにストーブを置かない。
- ◆近くで洗濯物を乾かすのは危険。

子どもの火遊びに注意

- ◆子どもには火の安全な扱い方や怖さを教える。
- ◆子どもの手の届くところにマッチやライターを置かない。

放火対策を万全に

- ◆ゴミは指定日の朝に出すなど、家のまわりに燃えやすいものを置かない。
- ◆車庫、物置などの戸締まりを忘れずにする。

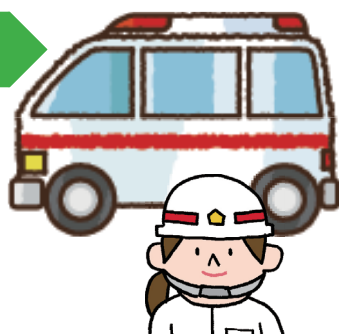
住宅用火災警報器の設置・維持管理

火災が発生した際にいち早く知らせてくれるのが「住宅用火災警報器」です。住宅用火災警報器の設置が義務付けられてから多くの家庭で設置されました。しかし住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の劣化や電池切れなどで火災を感知しなくなることがあるため、定期的に点検を行い、10年を目安に交換しましょう。



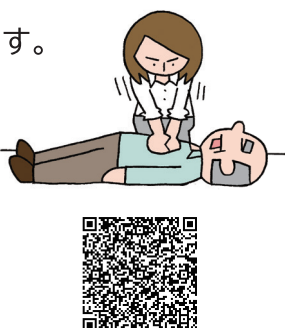
救急救命

突然の災害では、医師の治療を受けるまでに時間がかかることがあります。平時においても、傷病者が発生した場合に、大切な人の命を守るために、冷静な観察と判断、そして正しい救命処置ができるよう知識と技術を身につけておきましょう。



救命処置の方法を覚えておく

迅速な救命処置が大切な命を救います。消防本部では、市民の皆さんに応急手当の普及啓発を図るため、救命講習・救急指導を実施しています。詳しくは、行田市ホームページでご確認ください。



AEDの設置場所を覚えておく

AEDは市役所や公民館、学校などの公共施設以外にも、コンビニや大規模商業施設などさまざまな場所に設置されています。救命処置の方法とあわせて、AEDの設置場所を確認しておきましょう。



わが家の防災メモ

いざというときの避難場所・連絡先などを家族で決めておきましょう。

わが家の避難場所	家族の集合場所

家族・親戚など連絡先

名前	血液型	電話番号	会社・学校名	会社・学校の連絡先
	型			
	型			
	型			
	型			
	型			

家族の安否確認

災害時は、電話がつながりにくくなります。家族の無事を確認するために安否確認の方法を複数用意しておきましょう。

NTT災害用伝言ダイヤル

「171」をダイヤルし、音声ガイダンスに従って伝言の録音・再生をしてください。

メッセージの録音：171→1→市外局番から電話番号→メッセージの録音
メッセージを聞く：171→2→市外局番から電話番号→メッセージの再生

NTT災害用伝言板（web171）

ホームページ <https://www.web171.jp/>

災害発生時にインターネットで伝言の登録や確認ができます。

この他、携帯電話各社の災害用伝言板サービスもあります。利用方法は、各社ホームページ等でご確認ください。



防災情報の入手

災害時は、防災情報をいち早く入手することが重要です。地域の気象情報や避難情報などは、市や公共機関から様々な方法で発信されます。災害からあなたと家族の命を守るため、日ごろから情報の入手方法を確認しておきましょう。

行田市公式SNS



行田市公式のLINE、Twitter、Facebookなど、平時は市からのお知らせやイベント情報を発信しています。

災害時には、避難情報や避難所開設情報などの防災情報を発信します。



防災行政無線



災害時は市内に設置された152局のスピーカーを通じて、緊急情報を音声でお知らせします。

なお、防災行政無線の放送内容は、放送後24時間、防災行政無線音声確認サービスで確認できます。

☎0120-360-100（無料）

浮き城のまち安全・安心情報メール



防災や防犯に関する情報を携帯電話やパソコンに配信します。

事前の登録が必要です。

「gyoda.bouhan@mpme.jp」に空メールを送信し、登録手続きを行ってください。迷惑メール対策をしている場合は、ドメイン名「mpme.jp」が受信できるよう設定してください。



緊急速報「エリアメール」・緊急速報メール



市内の基地局エリア内の携帯電話に避難情報などを一斉配信します。

事前登録は必要ありません。

テレビ



NHKとテレビ埼玉では、市が発表した避難情報や避難所開設情報をデータ放送（リモコンのdボタンを押す）で確認することができます。

ラジオ



災害時応援協定を結んでいるFMクマガヤ（87.6MHz）では、放送を利用して広く防災情報の周知を行います。

インターネット



◆行田市ホームページ

市の避難情報や避難所開設情報などの防災情報
<https://www.city.gyoda.lg.jp/index.html>



◆埼玉県危機管理・防災・防犯等 彩の国の安心・安全
 県内の避難情報や緊急情報

<https://www.pref.saitama.lg.jp/theme/anzen/>



◆気象庁

台風・大雨・竜巻などの気象情報

<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>



◆Yahoo! 防災速報

登録した地域の気象情報や防災情報

<https://emg.yahoo.co.jp>

